

電気を止めない という強い思い



中部電力 代表取締役社長 水野 明久

(みずの・あきひさ) 愛知県出身、東京大学大学院工学系研究科土木工学専攻修了後、1978年に中部電力入社。1994年に世界銀行出向。1996年、土木建築部技術グループ主幹として発電所の建設などに携わる。その後、2001年に経営戦略本部国際部部長になり、2006年に執行役員経営戦略本部部長に就任。2010年6月から現職。

「今年の夏の電力需給の見通しは」

「今後、電気料金はどうなるの」――。

といった関心を集めているテーマに関して、

中部電力はどのように応えようとしているのか、

水野社長に聞く。

この夏場の 電力需給の見通し

昨年夏の夏や今年の冬、電力不足による停電がなかったのは、節電にご協力いただいた皆さまのおかげです。心より感謝申し上げます。

この夏につきましても、皆さまに電力ご迷惑をおかけすることがないように、全力で供給力確保に向けた準備を進めてまいりました。具体的には、高い熱効率を誇る最新の発電方式を導入した上越火力発電所を夏前に一部営業運転を開始すること、8月に予定していた火力発電所の定期点検をすべて繰り延べることで、古い火力発電所の再整備などです。

一方、この夏、全国的には厳しい電力需給が予想され、特に西日本の関西、九州地域では深刻な電力不足が懸念されています。こうした状況を踏まえ、国において全国レベルでの対策が検討されました。その結果、西日本で深刻な電力不足が懸念される地域に対して融通する電力を確保するため、中部地域の皆さまに対しても国から節電への協力要請がなされました。

当社は、中部地域の皆さまへの安定供給を最優先に、皆さまに節電のご協力をいただきながら、需給ひっ

迫が見込まれる地域への電力融通を行いたいと考えております。

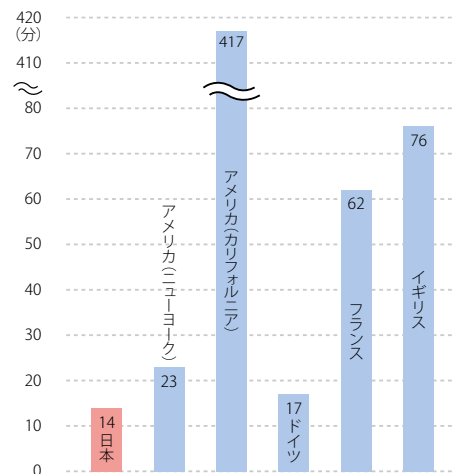
皆さまには大変ご不便をおかけいたしますが、7～9月、電力需要が特に高くなる平日13時から16時の時間帯を中心に、節電へのご協力を賜りますよう、この場をお借りして改めてお願い申し上げます。

電気はご家庭や企業をはじめすべての社会活動に不可欠なものです。私どもは、創業以来、「絶対に電気を止めない」という強い思いを一人ひとりの「DNA」として持ちながら、「安全で安価なエネルギーを安定的にお届けする」ことに日夜取り組んでまいりました。今後ともこの私どもの「使命」を果たすべく、中部地域の皆さまへの電力の安定供給に全力で取り組んでまいります。

現行の料金水準を 一日でも長く維持したい

当社の経営環境は非常に厳しく、昨期、大幅な赤字に転落しました。主な要因は、化石燃料費の増加です。実は震災以前から、化石燃料は高騰していました。ご存じの原油高に加え、LNGも石炭も新興国と奪い合いになっていったのです。加えて東日本大震災が発生し、昨年5月には浜岡原子力発電所の停止要請を受け

お客さま一軒あたりの年間事故停電時間の国際比較

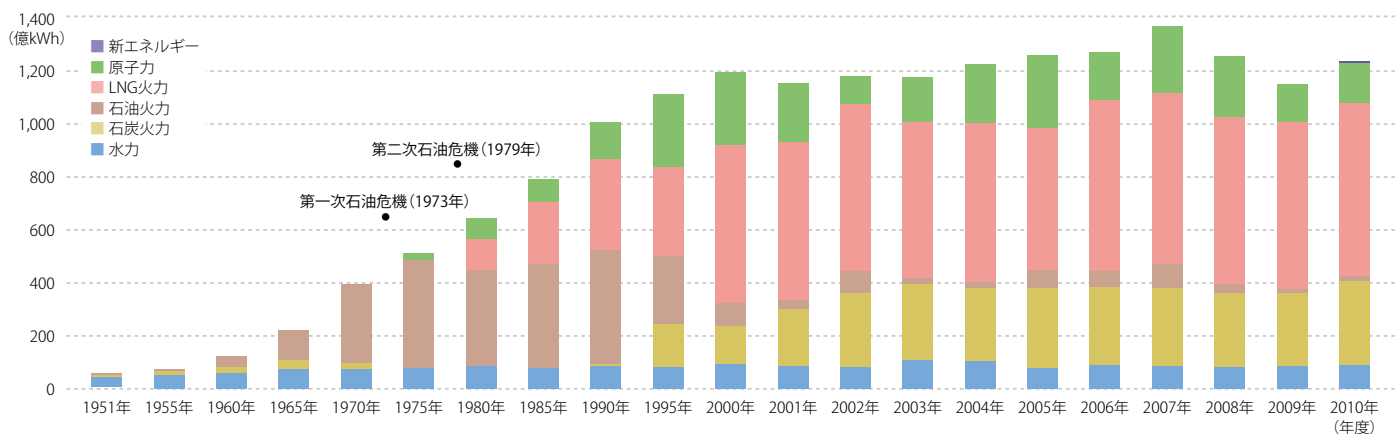


(注)日本は、2009年度実績。アメリカはニューヨーク、カリフォルニアともに荒天時等を含む2008年実績。ドイツは荒天時を除く2008年実績。フランスは荒天時を含む2007年実績。イギリスは荒天時を含む2008年実績。
出所:「海外電気事業統計2010」等より

て全号機を停止しました。比較的、燃料費が安価な原子力で発電していた電力は、今、火力発電でまかなっています。その結果、23年度の燃料費は22年度に比べ約3600億円増加しました。弊社では聖域を設けず経営の効率化を進め、緊急性が低い投資は見直しましたが、膨大な燃料費の増加は吸収し切れませんでした。

仮に日本国内への出費であれば、支払いを受けた企業が人件費や設備投資に使い、設備メーカーの売り上げが伸び……と日本経済の活性化につながりますが、燃料の調達費は、純粋に海外に「国富が流出」するこ

中部電力の発電電力量の推移 (電源別)



とになります。当社はこれまでも電気料金の値下げの努力をしてきましたが、今後も現行の料金水準を一日でも長く維持できるように努めてまいります。今、日本の経済状況が「良い」といえるでしょうか。東日本大震災だけでなく、タイの大洪水や円高などで痛みを受けた企業も多く、できるかぎりお客さまのご負担を増やしたくないと思っています。

「電気これからを考える場」をつくりたい

ほかに、皆さまにお伝えしたいことが、たくさんあります。例えば、再生可能エネルギーの現状です。当社は昨年、武豊町(愛知県)に大規模な太陽光発電システム「メガソーラーたけとよ」を建設し、運用しています。しかし、メガソーラーが1年かけて発電する電力を、すぐ隣の武豊火力発電所2号機は約19時間で発電します。武豊火力発電所は約40年前に建設されたもので、発電効率も悪いので、緊急時のみ運転するように取っておいたものです。私たちは、再生可能エネルギーの比率を、今後も高めていきますが、技術的・経済的にもまだ時間がかかるのは事実です。

資源の乏しい日本では、化石燃料価格の高騰や地球温暖化といった課題に対処し、将来にわたり安定的にエネルギーを確保していくには原子力、火力、水力、再生可能エネルギーなどの多様な電源をバランスよく組み合わせる必要があります。こうしたテーマをはじめ、原子力や電力需給、燃料調達の現状などといった「電気の話」をご理解いただくための私どもの取り組みが不十分ではなかったかと反省しております。

日頃から、メールやお電話、窓口でお客さまからいろいろなご意見をいただいております。それらには私も必ず目を通してまいります。皆さまのご意見やご質問は、私どもにとって貴重な「宝の山」なのです。

この広報誌は、これまで以上にしっかりと客観的な情報や、私どもの考えをお伝えしたい、また、お客さまからもご意見やご質問をいただきコミュニケーションを図っていききたい、そんな思いで発行させていただきました。誌面を通して皆さまと一緒に「電気これからを考える場」をつくっていくことができれば幸いです。

資源の乏しい日本では、化石燃料価格の高騰や地球温暖化といった課題に対処し、将来にわたり安定的にエネルギーを確保していくには原子力、火力、水力、再生可能エネルギーなどの多様な電源をバランスよく組み合わせる必要があります。こうしたテーマをはじめ、原子力や電力需給、燃料調達の現状などといった「電気の話」をご理解いただくための私どもの取り組みが不十分ではなかったかと反省しております。